

各部会での検討状況

<第3回産業部会：令和2年8月26日>

項目	委員意見
施策体系	○ 今回のコロナ禍を始め、社会経済情勢は目まぐるしく変わるので、 計画は絶えず見直しを行い、時機に適したものとしていくことが必要。
	○ モノづくりとICTの融合を図る際、ICTを東京に依存すると付加価値が流出してしまうため、 ICTの人材や企業を愛知に持ってくるような取組が必要。
緊急対策	○ 緊急事態宣言や休業要請の評価、様々な補助金・給付金等の効果や課題を整理したうえで、経済対策の優先順位を示すことも必要。
	○ コロナ禍は、 県内企業のデジタルトランスフォーメーションや県内の産業構造を改革するチャンス として生かしていくべき。
柱1	○ CASE、MaaS 対応の中で、自動車メーカーが事業の一部を Tier1に、同様に Tier1は Tier2以下に担わせる流れがあり、 やる気のある Tier2 以下の中小企業にとっては大きなチャンス。
	○ 当地域を世界に伍するスタートアップ・エコシステムの拠点とするためには、それぞれの主体が別々に事業を行うのではなく、 地域ぐるみで取り組んでいくことが重要。
	○ コロナ禍により、これまで活発であった投資や出資の先行きが読めなくなっている。 次世代を担う人材に必要な資金が行き渡っているか注視することが必要。
柱2	○ 3密を避ける観点から、大型店が高い集客力を持たなくなる可能性もあり、リアルとバーチャルを融合した祭りなど、 商店街も ICT のやり方によってはチャンス。
	○ 大規模小売店舗と地域の商店街等との共生を図るため、大型小売店舗が、地域の経済団体等と連携して地域貢献を行い、企業の社会的責任をしっかりと果たすようにしてほしい。
柱3	○ 県内で旅行業を営む中小事業者はアウトバウンドのビジネスモデルが大半であり、 柱3のインバウンド向け施策とは別の地域産業としての支援も必要。
柱4	○ 成果達成目標「輸出額の全国シェア」について、輸出に至るには時間がかかるため、 マッチング件数など中小企業が国際ビジネスに関心を持つ施策に係る指標を加えてはどうか。
	○ コロナ禍を受けた 東京一極集中の是正に向けて、過密のリスクや当地域のポテンシャルを踏まえて、どのような施策が必要なのか考えていくべき。
柱5	○ コロナ禍を受けて、雇用維持のため他社に社員を貸し出したり、リモートワークや副業も増えており、 働き方の多様化が進んでいる。こうしたことがイノベーションを生む可能性もある。
	○ 製造業はテレワークが難しくあまり取り組まれていないが、製造業が強い愛知だからこそ、 製造業とテレワークを組み合わせることができたら面白い。
柱6	○ コロナ禍により東京に住む価値を見出せない人材もいる中、オンライン営業やマーケティングなど、 この地域にノウハウがない分野の人材を U ターンや I ターンで獲得するチャンス。
	○ 工場長クラスを対象に モノづくりの現場での課題解決・価値創造のスキルと IT スキルの橋渡しを行うことのできる人材の育成に取り組んでいるので、県の施策でも生かしてほしい。
基盤施策	○ 中小・小規模企業へのデジタル技術の導入支援にあたっては、 考え方や文化、組織の変え方などソフト面での支援を重視することが必要。
	○ 企業の休廃業を防ぐという意味だけでなく、 サプライチェーンの維持や、従業員の技能伝承の意味からも、事業承継支援はコロナ禍において非常に重要。
	○ コロナ禍で全ての企業が生き残るのは困難な中、 経営者の意識改革が重要。 デジタル技術の導入や SNS での情報発信、他業種との連携など、 まずやってみることが重要。

＜第3回労働部会：令和2年9月1日＞

項目	委員意見
施策体系	○ 計画の実行段階において、市町村と連携し、市町村が自ら動けるような支援が必要である。
	○ 新型コロナにより、目指すべき姿、暮らしやすさ、働きやすさ、豊かさの指標などが 変わっている のでないか。それに対応した施策を盛り込み、 継続性のある計画 にすべき。
	○ コロナ禍で、非常時の対応、テレワーク、デジタル化、行政に求めることなど、今まで関心がなかったことが見えてきた。それも含め、 愛知が他地域よりも優位性を持ち、選ばれるための施策 を入れてほしい。
	○ 愛知県の有効求人倍率が、昭和 38 年に統計を取り始めて以来、愛知県が初めて全国の平均を下回った。 自動車関係に依存した産業構造だけではなく、いくつかの太い柱で社会を支えていこう、産業構造を転換していく必要がある。
	○ IoT、AIで企業間連携もできるようになった。生産性の向上のみでなく、 誰もが、生きがいや働きがいを持って活躍できる環境づくり を目指して、皆に分かりやすいビジョンにしてほしい。
	○ 数値目標の設定に当たっては、現状分析して、考え方の背景など、合理的な説明が必要。
緊急対策	○ 新型コロナ対策の補助金の申請期限が短い場合があるので、 周知期間 を設けてほしい。
柱4	○ 「 知の拠点あいち 」への相談の活用の仕方を分かるように指導してほしい。
柱5	○ 新型コロナの影響で、障害者雇用では、企業への実習から雇用に結びつく機会が奪われている。 困難な状況でも、環境を整えていくことが重要。
	○ 留学生の企業説明会への参加が非常に多いが、留学生の就職環境が特に厳しくなっている模様。 留学生の受け入れ支援や県内企業への就職支援の取組を継続 してほしい。
	○ 愛知県は外国人労働者が多く、デジタル化を推進しても多言語対応していないために、情報が届きにくい。 外国人が多い愛知の特有性を生かし、グローバル拠点都市になるよう先進的な取組を進めてほしい。
	○ 若者に対する施策は 定着支援のみ でなく、キャリア形成していく視点も入れた方がよい。
	○ 女性のビジネスセンスがもともと乏しいというイメージを持たれる表現や、女性社員の育成をするのを男性管理職に限る表現については、 男性も女性も共通であるような表現に工夫 してほしい。
	○ テレワークでは、就業時間以外は繋がりがたくないとか、在宅で家事・育児の女性への負担を大きくし、DV等になりかねない家庭トラブルも多く発生し、精神面でのサポートの必要性も見えてきた。 新しい価値観に沿った働き方を推進 していくべき。
○ テレワークの普及で、働く場所が自由に選ぶようになり、 若年層の東京圏への流出阻止のチャンス が生まれた。	
柱6	○ 愛知県では、技能実習だけでなく、 新たな在留資格である「特定技能」 でも、 全国トップの受入実績 であり、引き続き、時機に応じた施策を展開してほしい。